

特集社説 2010年10月18日(月)付 愛媛新聞

がん検診受診率 啓発見直し本気で50%目指せ

今月は「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」。そのことを、一体どれだけの人が知っているだろうか。

国は2009年7月「がん検診50%推進本部」を設置。検診に掛けた上杉謙信のイメージキャラクターを用い、協力企業に冊子を配ったり、月間中に全国大会を開くなど、啓発に努めている。

がん検診は、早期発見・早期治療によって死亡率を下げるために有効な、がん対策の柱。国も県も、受診率を「5年以内(国は11年度、県は12年度まで)に50%以上」とする目標を掲げた。しかし、肝心の受診率は全国的に20%前後と低迷したまま。県内も、08年度の受診率は五大がんすべてで10%台にとどまっている。目標達成の見込みは、限りなく低い。

国や自治体の啓発が浸透、奏功しているとは、残念ながら言い難い。期限は迫っており、そろそろ啓発方法や内容を抜本的に見直すべきではないか。このまま「目標は達成できなかった」で終わらせることがあってはならず、踏み込んだ対策を求めたい。

昨年秋の内閣府の世論調査では、97.4%が「がん検診は重要」と回答。がん対策の政府への要望(複数回答)で最も多かったのは「早期発見(がん検診)」だった。つまり「大事と分かっているが行かない」人がいかに多いかを示している。

確かに、健康な人の受診意欲を高めることは容易ではない。しかし従来の、例えば広報紙や街頭PRなどの不特定多数向けの啓発に限界があるのは明らか。国は、自治体に丸投げするのではなく、精度向上や無料化といった改革も検討しつつ、個別通知など「その人のための啓発」を粘り強く、繰り返し続けていくことが重要だろう。

さらに言えば、人間ドックなど個人の任意型検診と異なり、市町村の対策型(集団)検診は「集団全体の死亡率を下げる」ことが目的。そのためには最低でも50%以上、できれば欧米並みの60~70%の受診がなければ効果が出ないとされる。国や自治体は、税金を使って集団検診を実施する以上、現状のまま漫然と続けることは許されない。

一方、検診を受ける側も考えるべきことは多い。検診には当然、デメリットもある。微量とはいえ被ばくするし、費用もかかり不安にもなる。その意味で、最終的に受診の是非は個人の選択ではある。

それでも、2人に1人ががんにかかる時代。早く見つければ「治る病気」にもなりつつある。多くのがん体験者は「もっと早く見つけていれば…」と悔やみ、検診の大切さを訴えている。自分の体を守れるのは自分。そのことを、忘れないでほしい。

平成21年度・22年度の上半期におけるがん検診受診状況(住民検診)

平成21年・22年度住民検診受診者数

(総合保健協会実施分)

	平成21年度	平成22年度	前年度増減数	前年度比
特定健診	26,943	24,994	-1,949	92.8
肺がん検診	31,599	28,870	-2,729	91.4
胃がん検診	19,529	17,754	-1,775	90.9
大腸がん検診	25,987	24,023	-1,964	92.4
乳がん検診	12,842	12,180	-662	94.8
子宮がん検診	17,763	13,666	-4,097	76.9
がんTotal	107,720	96,493	-11,227	89.6

前年度同期(上半期 4月～9月)におけるがん検診の受診者

1、がん検診全体の受診数は、前年度比で約10%減少。

2、各がん検診項目

1)、肺がん検診;間接撮影→CR撮影(検診料金の影響)

2)、胃がん検診;全国的な傾向(検査の苦痛、内視鏡検査への移行)

3、大腸がん検診;検診の信頼性(精密検査の苦痛)

4、乳がん検診;マンモグラフィ検査の苦痛

5、子宮頸がん検診;個別検診への移行

参 考:特定健診

基本健診 → 特定健診への移行の影響

平成21年度女性特有のがん検診実施状況(無料クーポン券利用状況)

1、平成21年度無料クーポン券検診利用状況(全国・愛媛県)

1)、乳がん検診

・利用率; 全国・24.1%、愛媛県;28.7%

・全国順位;7位(1位:岩手県34.6%、最下位:大阪府19.6%)

2)、子宮頸がん検診

・利用率; 全国・21.7%、愛媛県;22.9%

・全国順位;19位(1位:北海道28.0%、最下位:沖縄県17.8%)

参 考;保健協会実施数(利用者数に対する実施率)

乳がん検診;7,620人(50.1%)、子宮頸がん検診;3,167人(32.3%)

乳がん検診

	対象者数	利用者数	利用率	全国順位
全 国	4,357,223	1,047,974	24.1	
愛媛県	52,502	15,044	28.7	7

子宮頸がん検診

	対象者数	利用者数	利用率	全国順位
全 国	4,060,181	879,540	21.7	
愛媛県	42,936	9,812	22.9	19

受診者の利便性を考慮した実施状況

平成21年度実施(無料クーポン券対象)

平成21年度

実施場所	フジグラン重信、衣山、夏目、エミフル松前(2日)	
実施日数	5日	
受診数	乳がん検診・・・	365人、73人/1日平均
	子宮頸がん検診・・・	209人、42人/1日平均

女性特有のがん検診推進事業として、乳がん・子宮頸がん検診について配布された無料クーポン券の活用を促進し、検診受診率の向上を図ることを目的に県の指導と市町の協力の下で、受診者の利便性を考慮して、集客能力の高いスーパーマーケットで実施した。

結果

21年度	乳がん検診	全検診会場で予定数(70人)を超える利用者があった。
	子宮頸がん	対象年齢が20～40歳であり、予定数(100人)を下回った。
22年度	乳がん検診	各会場とも予定数を大きく下回る状況。(普及・啓発不足)
	子宮頸がん	各会場とも予定数を大きく下回る状況。(普及・啓発不足)

平成22年度(4月～9月)

実施場所	フジグラン重信(2日)、衣山(1日)、	
実施日数	3日	
受診数	乳がん検診・・・	78人、26人/1日平均
	子宮頸がん検診・・・	29人、10人/1日平均

平成22年度無料クーポン券受診者を対象に新たに実施した検診

検診実施場所	実施日数	乳がん受診数	子宮頸がん受診数
城山公園(R・F・L開催時)	2日	8	7
いよてつ高島屋	5日	53	30
ピンクリボンイベント	1日	24	6
協会施設夜間検診	2日	9	17
Total	10日	94人	60

* 夜間検診実施時間:18:00～19:00

がん検診受診率減少原因と取り組み(案)

がん検診受診率減少の原因

検診受診率は、前年度比で約10%の減少(4月～9月 上半期比較)	検診率が向上しない原因、背景の再調査(原因不明では対策なし)
啓発不足	普及・啓発
他人依存性	他人依存性
不信感	不信感
利便性	利便性
検診料金	検診料金
行政の施策	行政の施策
検診否定論	検診否定論

検診向上の取り組み

検診率が向上しない原因、背景の再調査(原因不明では対策なし)	メディアの活用、住民・企業を対象とした講演会の開催
普及・啓発	検診の正しい理解(自分の健康・自分が守る)
他人依存性	精度管理の徹底
不信感	検診実施環境の整備
利便性	検診コストと早期発見による医療費削減効果
検診料金	がん検診推進のための責任体制、司令塔の明確化
行政の施策	要対策
検診否定論	